

枠にとらわれず、 様々な分野を学び、 福祉に生かして

中部学院大学 学長 岡本 健

まとめ／堀水潤 撮影／近藤真悟



【学長プロフィール】1930年生まれ。慶應義塾大学医学部卒業後、耳鼻咽喉科医に。国立病院機構東京医療センター(旧国立東京第二病院)耳鼻咽喉科医長、産業医科大学耳鼻咽喉科教授、国立病院機構東京医療センター院長などを経て97年より現職。医学博士。
【大学プロフィール】1918年開設の岐阜裁縫塾が源流。67年創立の短期大学を母体に97年開学。97年に人間福祉学部、2007年に子ども学部、リハビリテーション学部、08年に経営学部を設置し4学部5学科に。01年には大学院人間福祉学研究科を設置。加えて通信教育部。

本学の初代学長に就任するまで、私は医療の世界に身を置いていました。その間に携わった産業医学の研究や国立病院の再編、電子カルテの導入など様々な経験は福祉の世界でも役立つと信じています。医療は、病気を治す医療から、予防する医療、最期を看取る医療へと分野を広げています。その際、福祉に携わる人間が医療用語を理解できなくては困ります。また、技術の進歩は目覚しくテクノロジーが福祉を支える時代がきています。これは福祉従事者の肉体的負担を軽くしてくれますが、同時に工学の知識も求められるということ。同様に、福祉産業や福祉政策に通じた人材も必要になる。つまり、これからの福祉は総合学問として、様々な分野を学ぶ必要があるということなのです。

以前、米国の著名な教授に、「日本にスペシャリストはいない。いるのはスペシャロイド(専門家もどきだ)」と指摘されたことがあります。確かに、日本の医療界は専門が細分化され、専門医は多いのですが、同時に専門しか知らない人も多し。本来、専門家とは広い見識を前提に専門に長けた人であるのに、日本では専門以外を知らない人を専門家と呼んでいるようです。私は返す言葉が見つかりませんでした。

福祉の世界が同じようになってはいけません。本学が基礎教育を重視しているのもそのためです。例えば人間福祉学部ではリベラルアーツとして基礎的な領域を広く学んだうえで3年次から専門コースに進むカリキュラムになっています。また、通信教育部があり、これを活用して興味ある分野を学ぶこともできますし、県内の大学コンソーシアムを活用し、他大学の講義を受けることも可能です。

もちろん、福祉で最も大切なのは人間をどう理解するかということ。相手の心を察する人間になつてもらいたい。例えば、施設で歌の会を開くと、昔の流行歌を聞きながら涙を流す30年配の方がいます。私だって、子どもの頃に慣れ親しんだ歌に触れると心が揺さぶられますよ。若者ですから古い歌に関心がなくても、こういう心情は理解してほしい。その人がどういう人生を歩んできたか、あるいは今何がしたいのかを察することができる。そんな心をもつてほしいのです。

少子高齢化は予測以上に進展するはずですが、福祉の需要は高まり、それを支えるのが本学の学生です。世の中の移り変わる様をしっかりと見聞きし、これに対処する知恵をつけてほしいですね。